



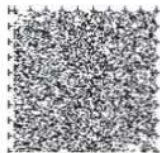
守ろう

くるめの生きもの



ひん せう び
久留米市環境部

～くるめ生きものプランより～

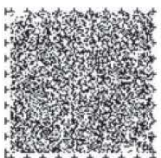




筑後川から見た^{あいの}耳納山地

もくじ

- 1 みんなで守ろう
- 2 なぜ、生きものが減っているの
- 3 何かできることはあるのかな
- 4 自然とふれあい、自然と生きるまち ^{しぜん}くるめ
- 5 調べてみよう、書いてみよう



1 みんなで守ろう



1. はじめに

久留米市の生きものを一緒に見ていこう。

私たちの暮らしは、自然からいろいろなめぐみを受けることで成り立っています。今、その自然が失われようとしています。

みんなが住んでいる久留米市では、約200種近い生きものが、いなくなろうとしています。そして、いなくなった生きものは、かんたんには帰ってきません。



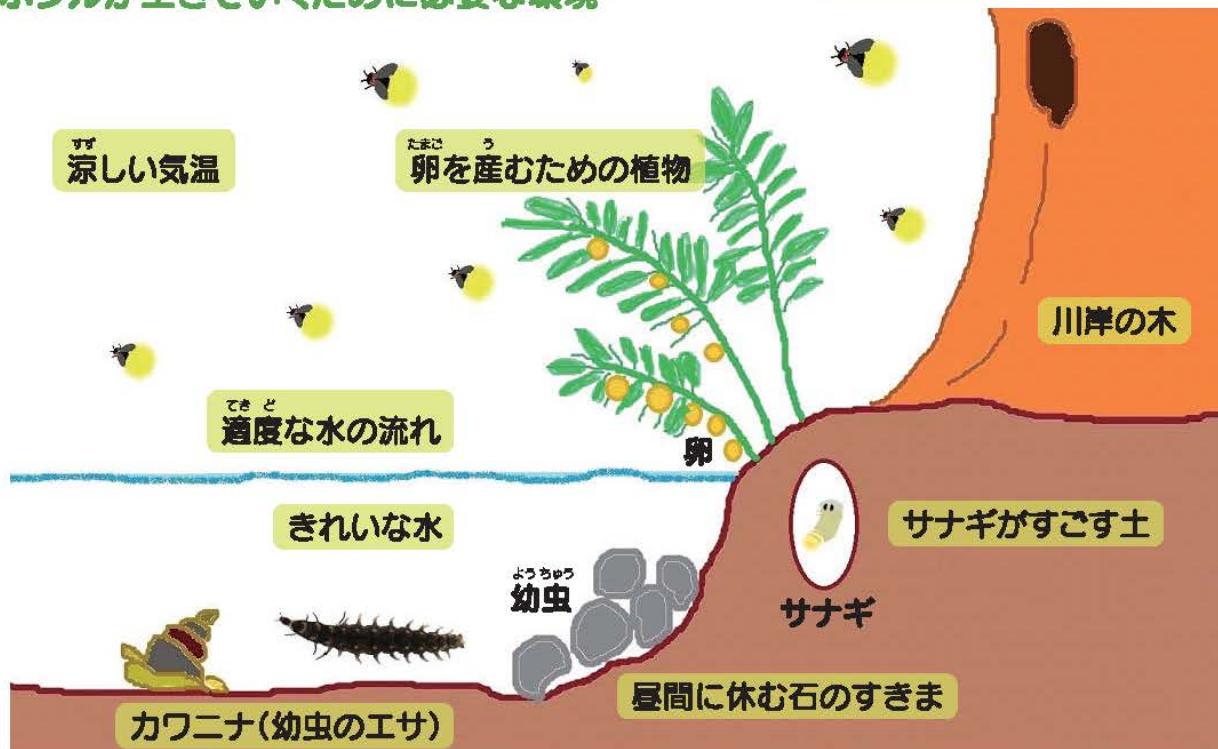
私たちが自然のことを良く知り、上手に付き合いながら、今残っている自然を将来につなげていき、失われた自然を取り戻す努力をすることが大切です。

生きものを守っていくために、みんなで、勉強してみよう。

2. どうしたら生きものを守れるかな？

(例) ホタルが生きていくために必要な環境

太陽の光が差し込めるくらいの林



ホタルだけでなく、全ての生きものは周りの自然に支えられて生きています。この環境が1つでもなくなってしまうと、生きものはいなくなるかもしれません。

いろいろな生きものがあること、そして、それらの生きものが、「食べるー食べられる」の関係をはじめ、いろいろ関わりあい、環境に合わせて生活している事を難しい言葉で **生物多様性** といいます。



3. 久留米の生きものたち



久留米市では、^{ちい}地域によっていろいろな生きものがいるよ。

街なかで見られるよ



メジロ

街なかの公園や
神社では、メジロや
シジュウカラなどの
鳥も観察できます。



シジュウカラ

川で見られるよ



アリアケギバチ



オヤニラミ



ゲンジボタル

^{ちくごがわ}筑後川につながる川では、アリアケ
ギバチやオヤニラミなど数が少なくめず
らしい魚が観察できます。

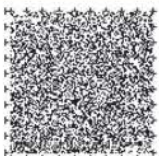
ホタルや渡り鳥で知られるカモが観察
できる場所もあります。



マガモ



カンムリカイツブリ



田園で見られるよ



カヤネズミ



カヤネズミの巣

大人でも体長6cmくらいで、日本で一番小さなネズミと言われるカヤネズミ。ススキなどの葉を上手にあんで丸い巣をつくりま

水路には、ドジョウ、カエル、ウナギ、メダカなどが生きています。



ヤマトシマドジョウ

山地で見られるよ



クヌギ

クヌギやコナラなどのドングリの木や、フデリンドウなどの山原の花が観察できます。

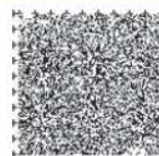
ニホンザル、ムササビ、フクロウなどめずらしい生きものもいます。



フデリンドウ



コナラ



4. なかなか見られない生きものがある地域ちい

きみの家はどのあたりにあるのかな。



A

じょう しま まち うき しま
城島町の浮島



タコノアシ



カニやタコノアシなどもいるよ。

B

か ごと う せん
広川河口付近



ヤマノカミ

サギなどの鳥が見られ、ヤマノカミ、エツなどの魚もいるよ。



C

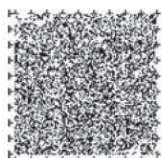
こう らん しょう へん
高良山周辺



キンメイモウソウチク



てん ねん き ねん ぶつ
天然記念物のキンメイモウソウチクが見られ、オオタカやハヤブサなどもいるよ。



D 鎮西湖付近



コムラサキ



コムラサキなどのちょうが見られ、アリアケギバチ、オヤニラミなどの魚もいるよ。



E 筑後川中流域(恵利堰周辺)



イカルチドリ

いろいろな魚がいて、コアシサシやイカルチドリなどの鳥も見られるよ。



優れた生態系を有する地域 
旧行政区境界 

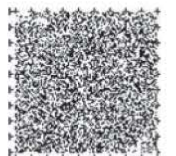
F 竹野地区の里地里山



ヒナモロコ



なかなか見られないヒナモロコもいるよ。



5. 筑後川のめぐみ



筑後川は、長さが143キロメートル、4県18市8郡にまたがる、九州一の大きな川です。私たちは、この筑後川の豊かな水のめぐみを受けて暮らしています。

農業用水として役立っている

筑後川の水を利用して、米などたくさんの農作物を作っています。田畑は、いろいろな虫や鳥たちなどのすむ場所になっています。

とても珍しい水域なんだ

有明海は、しおの満ち引きがとても大きく最大で6メートルくらいあります。

そのうえ、筑後平野はとてもなだらかで、満ちしおの時に有明海の海の水が川をのぼってきて、川の水を押し上げます。

川の水と海の水が混ざっている所を汽水域といい、この環境でしか生きれない生きものもいます。

城島町のエツ漁で有名なエツは、有明海にいる海の魚ですが、5～8月に川をさかのぼって汽水域で卵を産みます。

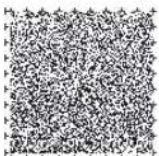


エツ(絶滅危惧種)



みんな里地里山って知ってる!?

里地里山は、長い歴史のなかでさまざまな人間の働きかけを通じてできた自然環境です。田んぼや小川、原っぱ、うら山など、身近な自然として親しまれてきた環境であり、日本の4割を占めているよ。



6. 耳納山地のめぐみ

久留米市は、耳納山地があります。

これらの自然は、生きものにとって大切なすみかとなっています。

また、耳納山地などの森林は、雨水をたくわえ二酸化炭素を吸って、生きものに必要な酸素を生み出しています。



耳納山地のふもとは、水はけがよく果物を作るのに向いています。

柿やぶどう、梨などたくさんの果物が作られていて、フルーツ狩りなども盛んです。



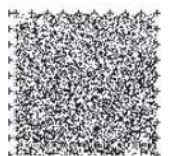
自然のなかで、私たちの生活は成り立っています。

生きるために必要な、空気や水をうみだし、食べ物、着る物、燃料など、生活のほとんどのものが、自然からのめぐみです。

また自然は、レクレーションの場所や心の安らぎを与えてくれたり、洪水を防ぎ、災害から私たちの暮らしを守ってくれたりします。

そして自然には、いろいろな生きものがいることによって成り立っています。

生きものがいなくなると自然からのめぐみを受けられなくなって、みんなが困ります。



2 なぜ、生きものが減っているの

1. 久留米市の課題

久留米市でも生きものがいなくなっています

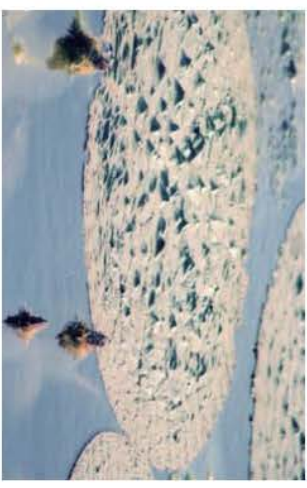
久留米市では、約200種近い生きものがいなくなることが、心配されています。

(福岡県レッドデータブック2011、2014より)

10年前は、近所の田んぼや水路で見つけることができた身近な生きものが、最近はなかなか見つけることが難しくなりました。



トノサマガエル



オニバス

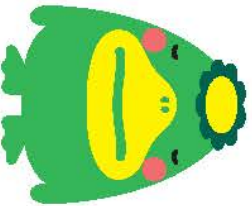
いなくなることが心配されている生きもの



ミナミメダカ



キキョウ



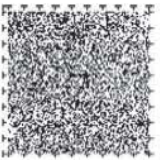
どうして生きものがいなくなっているのかな。



生きもののおすむ場所が無くなっています (例)カエルのすむ場所

特に街なかでは、家や工場をつくることなどにより、生きもののおすむ場所になる自然が減っていると言われています。

カエルが生きていくためには、このようないろいろなタイプの自然が、まとまっている必要があります。



外来種による被害もあります



外来種とは、人間の活動によって他の地域から連れてこられた生きもののことだよ。

外来種には、食べるために日本に連れてこられた生きものや、ペットとして飼われていた生きものが、逃げたり、野外に放されたりして数が増え、自然のなかの食べる食べられるのバランスをこわすものもいます。

久留米市でも外来種が、多く確認されています。

久留米市で生息している外来種(一部)



アライグマ



ミシシippアカミミガメ
(ミドリガメ)



スクミリンゴガイ
(ジャンボタニシ)



オオクチバス
(ブラックバス)



ブルーギル



オオキンケイギク



セイタカアワダチソウ



ウシガエル



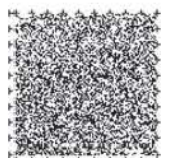
ポタンウキクサ



ガビチョウ



ソウシチョウ



生きものの生息環境が変化しています

植物が決まった季節に芽を出したり、冬眠している動物が春に目を覚ましたりするの、温度に影響を受けているからと言われています。

温暖化により平均気温が上がり続けると、生きものに影響を与えます。

また、大雨や海面の上昇などにより、生きもののすんでいる場所が変化してしまう可能性があります。



知ってる？ 世界の平均地上気温が上がり続けると(未来予測)

1°C 高くなると



大雨などの異常気象によるリスク(危険性)が高くなります。また、深刻な影響を受けるリスクにさらされる生き物は、今よりも増えるとされています。

2°C 高くなると



環境の変化に適応する能力が限られている生き物は、非常に高いリスクにさらされると言われています。例えば、海水の温度が上がると、サンゴは白くなり、やがて死んでしまうかもしれません。

3°C以上 高くなると



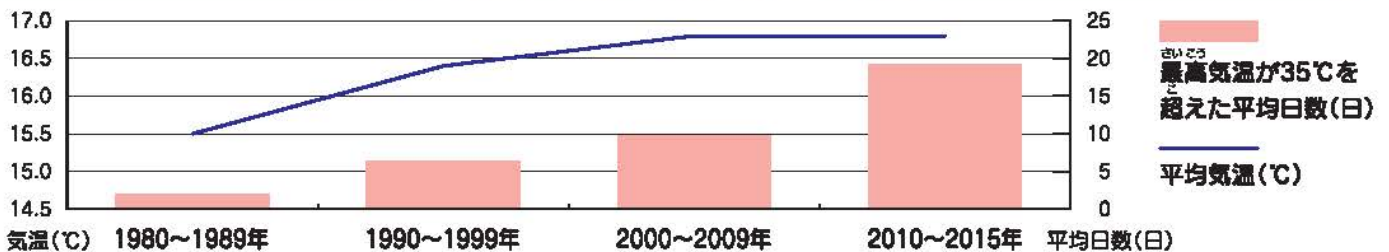
グリーンランドなどの氷床が大規模に溶けてもどらなくなるため、海面の高さが上がるかもしれません。

出典: 環境省「こども環境白書2016」より

平均気温が1.5~2.5°C上昇すると、生きものがいなくなる可能性が、20~30%高くなると言われています。
くるめでは、どのように気温が変化しているかな。

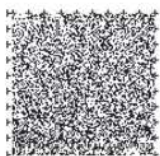


久留米市の平均気温などの推移



生物多様性の意味があまり知られていません

生きものを守っていくために、とても大切な生物多様性について、久留米市では、あまり知られていません。



久留米市:平成27年度市民アンケートモニター調査結果
福岡県:平成27年度県政モニター調査結果

アンケート調査結果	
生物多様性のことを知っている人の割合	
久留米市の調査	福岡県の調査
25.1%	43.4%

3 何かできることはあるのかな

自然とふれあい、自然と生きるまち くるめを実現させる
ために、私たちにできることはたくさんあるよ。
どんなことがあるのかな。



1. すぐにでも始めるべき行動

身近な自然や生きものとふれあう

- 自然観察や自然体験をしよう。



私たちの生活は、昔より便利ですみ良いものになりました。

しかし、その一方で、多くの生きものがいなくなっています。

それを自分の目で見るのが大切です。

そのためには、自然観察や自然体験に参加するなど、身近な自然や生きものとたくさんふれあい、身体で感じるのが大切です。

環境美化活動を行う

- 地域の清掃活動などに参加しよう。

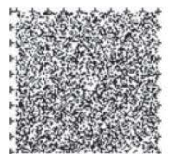
地域で行われる一斉清掃、企業などによる周辺道路のごみ拾い、筑後川河川敷でのノーポイ運動などが行われています。

このほか、環境美化ボランティア制度「くるめクリーンパートナー」の登録者の人が、散乱ごみを収集しています。

これらの活動が、身近な環境を守り、自然を育てていくことにつながります。



出典：環境省「こども環境白書2016」より



環境のことを考えた消費者になる

● 地元産の食材を選んで料理しよう。

地元でとれた野菜や果物などを味わうことで、季節や、自然のめぐみの大切さを感じましょう。

このように地元で取れた食材を地元で食べることを「地産地消」といいます。

「地産地消」は、物を運んだり保存したりするのに必要なエネルギーが減り、温暖化をやわらげることにもつながります。



道の駅くるめ

● ペットは最後まで飼おう。



ミシシippアカミミガメ(ミドリガメ)(外来種)

ペットのなかには、もともと久留米市にいない生きものもいます。

その生きものを放すと、もともといた生きものすみかをうばう可能性があります。

ペットを飼い始めたら、最後まで面倒をみましょう。

それが、飼い主の責任です。

資源を大切に使う

● 省エネ(温暖化緩和策)に取り組もう。

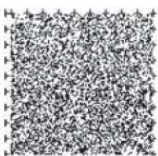
春に桜が咲いたり、冬に亀が冬眠したりするように、生きものは季節を感じながら生きています。

温暖化により気温が上がると、自然に影響を与え、生きものがいなくなってしまうといわれます。

使わない電気は消す、水は出しばなしにしないといった取り組みも生きものを守ることにつながります。



出典:環境省「こども環境白書2016」より



● もったいないをさがそう。

身の回りで、無駄むだになっているものはありますか。

食べものに感謝かんしゃして、ご飯はんのこを残さない。

無駄なものは使わないといった行動は、自然を大切に、生きものを守ることに繋がります。

もったいない？



出典：環境省「こども環境白書2016」より

● 3Rにチャレンジしよう。

ごみの量りょうを減らす (Reduce)・くり返し使う (Reuse)・再び利用りようする (Recycle) という、資源しげんを大切に使うための行動はじのことを、初めの文字「R」をとって、「3R」といいます。

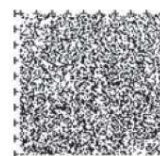
R Reduce リデュース
使う資源しげんやごみの量を減らすこと
● つめかえのできる製品せいひんを選んで買う
● 必要のない包装くわさくは断る
● レジぶくろを断る
● マイはしを持ち歩いて使う など

R Reuse リユース
ものをくり返し使うこと
● こわれたものを簡単かんぱんに捨てずに修理しゆりして使う
● いらなくなったものは捨すてずに必要な人ひとにゆずる など

R Recycle リサイクル
使い終わったものものを資源しげんとして再び利用りようすること
● 古新聞ふるしんぶんや古紙ふるしを資源回収しげんきゅうに出す
● リサイクルボックスりさいくるとおぼくすでごみを分別ぶんべつする
● リサイクルされた製品せいひんを選んで使う など

出典：環境省「こども環境白書2016」より

こういう取り組みが広がると、自然とふれあい、自然と生きるまち くるめに近づくよ。
2050年には、どのようなまちになっているかな。



4

自然とふれあい、自然と生きるまち くるめ

1. こんな将来の姿をめざそう

将来の街なかの様子

道路には、いろいろな種類の木が植えてあり、公園は人だけでなく、他の生きものにとっても、住みやすい工夫がされているなど、いろいろなところで生物多様性のことを考えた緑化が行われています。

まとまった緑は、生きもののすみかや休む場所となり、街なかで生きものの観察ができます。

自転車で街なかをめぐったり、サイクリングの環境が整い、多くの人が自転車を利用しています。



将来の田園の様子

みんなが農業への理解を深め、農地や水路などの保全活動に参加するなど、豊かな田園が守られています。

その豊かな田園地帯では、環境のことを考えた農業が行われ、そこで作られたいろいろな農作物により、私たちの食卓はより豊かになっています。

また、多くの生きもののすみかとなり、さまざまな生きものがいます。

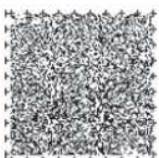


将来の山林の様子

耳納山地などのまとまった森林が、多くの生きものを育て、水源として守られています。

生きもののことを考えた林業や森林ボランティア活動により、自然が守られ、クマタカやムササビなどがすんでいます。

豊かな生物多様性を活かした観察会や、イベントが開催され、週末には市外からも多くの人を訪れます。



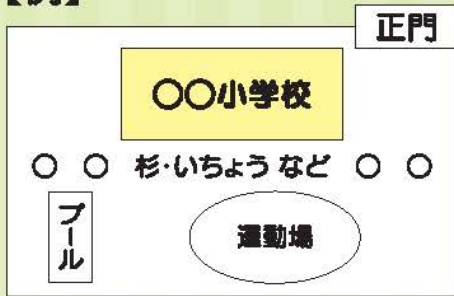
5 調べてみよう、書いてみよう

1. 学校の生きものを調べてみよう

君たちの学校をのぞいてみよう。
学校内のいろいろな生きものを見てみよう。



【例】



- ・ いちようの木の下で落葉のなかに虫がいたよ。
- ・ 落葉の下の土でミミズを見つけたよ。
- ・ 杉の木にツバメやスズメが飛んできている。
- ・ 校庭の端にミツバの花やバッタがいるよ。
- ・ 花壇のチューリップやひまわりにハチが来ているよ。

どこにどんな生きものがいるのかな。

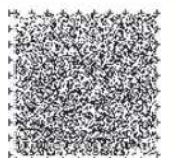


生きものマップを描こう

年 月 日

植物(木の種類)

動物・昆虫



生きものがいなくなって、自然から受けているめぐみがなくなれば、私たちの暮らしは成り立ちません。

今、くるめにある筑後川や耳納山地などの自然をこれ以上減らさないように、守り、育てます。

さらに、生活のなかで「自然とふれあい、自然と生きるまち くるめ」を目指します。

2. 自分(個人)でできることを考えてみよう

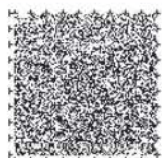
自然と生きるまちくるめのためにあなたができることは何かな。身近なところから考えてみよう。



年 月 日



2050年には、久留米の自然はどのようになってほしいですか、ねがいを書いてみましょう。





久留米森林つつじ公園から見た筑後川と筑後平野

参考文献

環境省「こども環境白書2016」

気象庁「過去の気象データ検索」<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>

福岡県「福岡県生物多様性戦略」

福岡県「福岡県レッドデータブック2011 福岡県の希少野生生物 — 植物群落・植物・哺乳類・鳥類 —」

福岡県「福岡県レッドデータブック2014 福岡県の希少野生生物 — 爬虫類/両性類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等 —」

写真などの使用について

本計画に掲載の写真などの一部は下記の方々から提供いただきました。この場を借りて感謝申し上げます。(敬称略)

環境省 総合環境政策局 環境計画課

愛知県環境部自然環境課 生物多様性保全グループ・国際連携・生態系グループ

福岡県 保健環境研究所

公益財団法人久留米観光コンベンション国際交流協会

筑後川防災施設 くるめウス

エツ祭実行委員会(ふれアオ塾)

日本野鳥の会 筑後支部

久留米の自然を守る会

津田堅之介生物生態写真研究所

トールガック ファクトリー

Tullugaq Factory

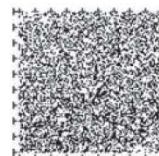
表紙・裏表紙について

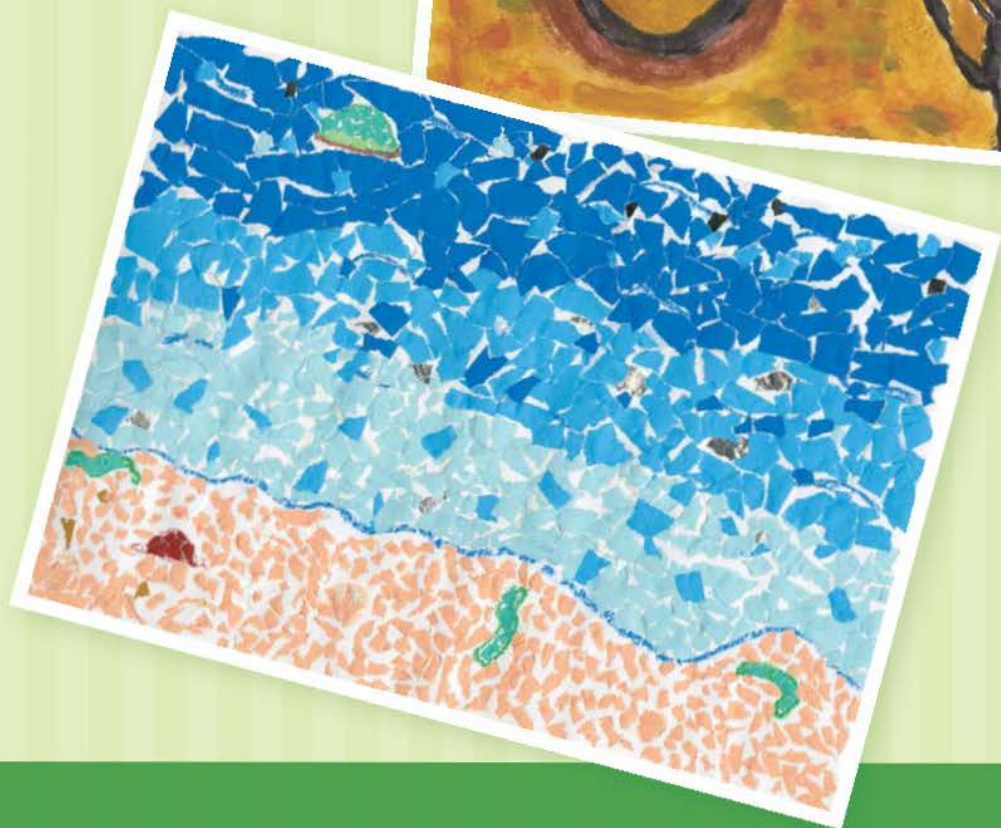
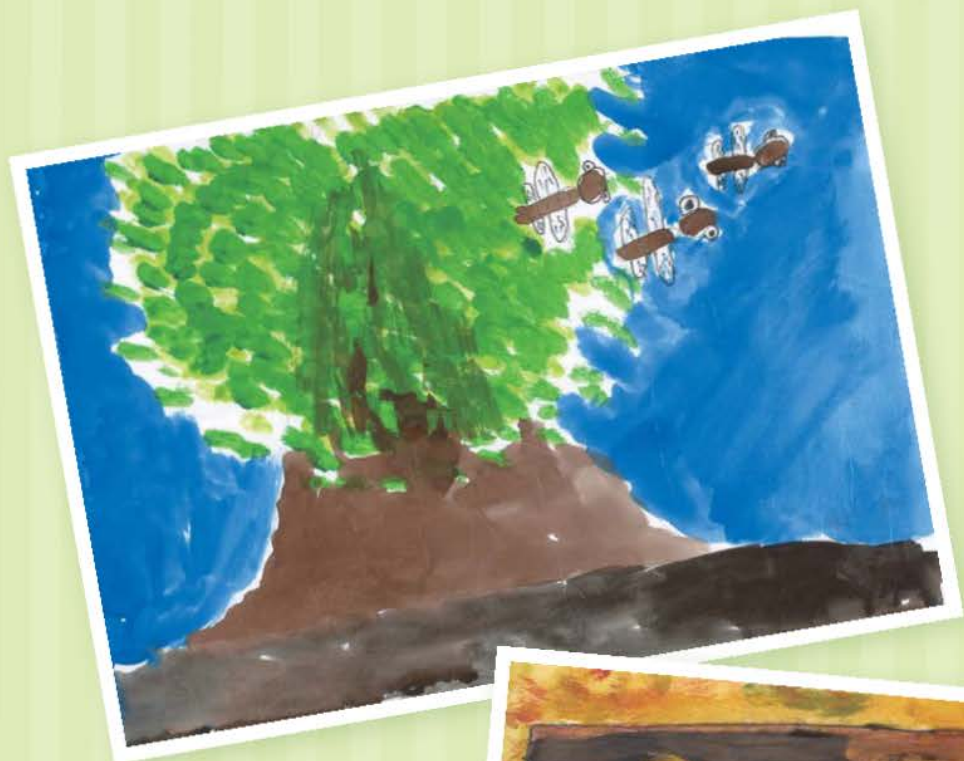
本冊子の表紙・裏表紙には平成28年度久留米市自然観察コンクールの入賞作品を使用しております。

この場を借りて感謝申し上げます。(敬称略)

表紙 久留米市立合川小学校 小塩 晏詩
久留米市立金丸小学校 佐藤 夕海

裏表紙 久留米市立合川小学校 かのう けい
久留米市立日吉小学校 過能 希唯
久留米市立金丸小学校 ふかまち そうすけ
深町 宗右
河戸 桃花





発行 / 久留米市環境部環境保全課
発行日 / 平成29年3月

問い合わせ : TEL0942-30-9043